



お

す

め

の

ち

あ

め



お茶が  
入りましたー

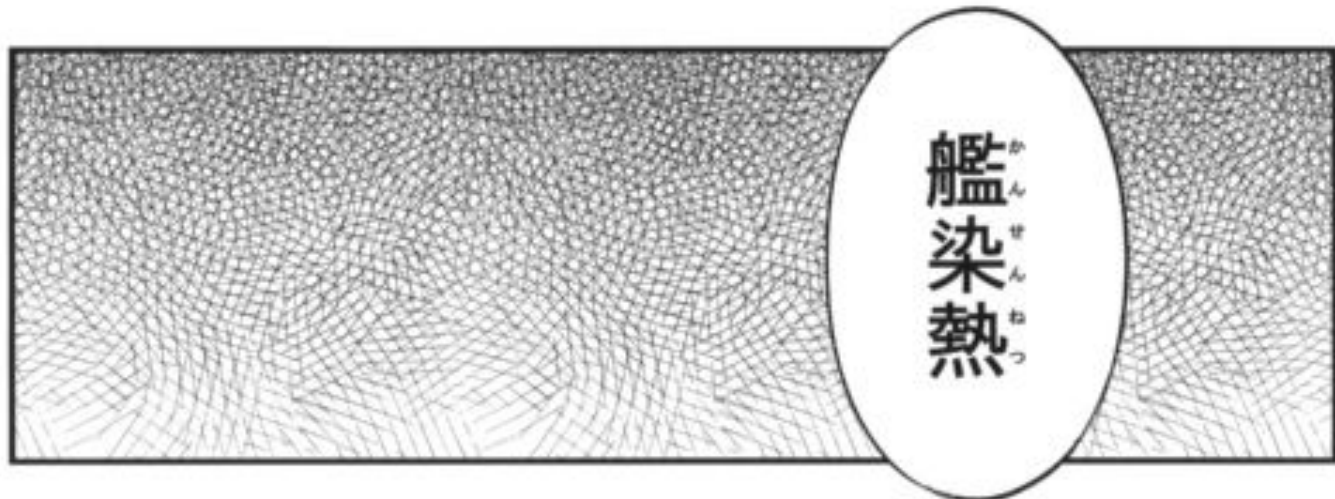
提督ー



よ……

あ……







艦娘だけに  
感染する  
ウイルス性の  
熱病

ヒトで言う  
インフルエンザに  
近いものです

命に関わる  
ケースは多く  
ありませんが  
駆逐艦のような  
小さいコには  
注意が必要です

五月雨……

はあ  
はあ

ウイルス性と  
言ったな

感染源は  
特定できる  
のか？

ひとまず  
他の連中には  
この医務室の  
立ち入りは  
禁止させて

熱が出た者は  
申し出るよう  
鎮守府内で  
通達してくれ

それは  
調べてみないと  
まだ……

五月雨は  
私が見ておく

わかりました

五月雨が倒れたと  
聞いて心配に  
なっていたな

様子を  
見に来たのだ

長門さん

お

待った

五月雨の熱は  
艦娘に伝染する  
病気だ

見舞いは  
ありがたいが  
部屋に入らず

お前なんか  
湯立ってるぞ

風呂上りか？

？

ホカ

む？

やはり  
提督もそう  
思うか？

どうやら  
数日前から  
体が火照っていな

私としては  
性欲の高まりが  
体調に  
あらわれていると  
思ったのだが

お前が感染源か!!



つらそうだな...

はあ

はあ



何でコイツは  
ピンピンと  
してるんだ

長門さんは  
大きいし  
カラダも  
強いですから...

ははは

そんなに  
褒められると  
照れてしまう



しかし  
強いカラダに  
生まれたというのも  
哀しいものだ

私だって  
時には甘えたい  
こともある

一晩中  
誰かの指を  
しゃぶって  
ねぶって過ごしたい  
夜もあるのだ

うるせえ  
ケツにネギ  
入れるぞ

いいぞ...  
後ろと言わず  
前と言わず

もう  
黙っててくれ



お仕事…  
できなくて…

お役に  
立てなくて…

すみません…



提督…



今は  
ゆっくり  
寝てるんだ

いいんだ  
五月雨



優しい手…

提督…



私にもし  
お父さんが  
いたら……

提督みたい  
なかな……



五月雨……

ん

大丈夫なのか……?

もう

もう大丈夫

お父さん

うん







病み上がりで  
混乱していると  
思うが

お前は私と  
このお父さんの  
間に生まれた  
愛の結晶……

オイ

私とお父さんの  
アクロバティックな  
体位によって  
受胎した可愛い  
わが子なのだ

コラ



お前は熱で  
私が母であるという  
記憶を無くして  
しまっている!!

しかし  
私は紛れもなく  
お前の母親なのだ

うわべだけで  
いい!  
この私を母と  
呼んでは  
くれまいか!!



うん……

ごめんね

お母さん

信じた!?



おい……  
何言ってるか  
のわかってんか

提督も  
お父さんとして  
五月雨の話に乗って  
あげてるではないか

私が  
そこに乗っちゃって  
何の問題が？

お前は  
乗車券を  
偽造してる  
だろうが



……  
我々艦娘には  
親がない

いま五月雨が  
ひとときの  
夢を見ている  
ならば

それは……  
いい夢であって  
欲しいだろう

長門……



口元が  
緩んでるぞ

心配ない

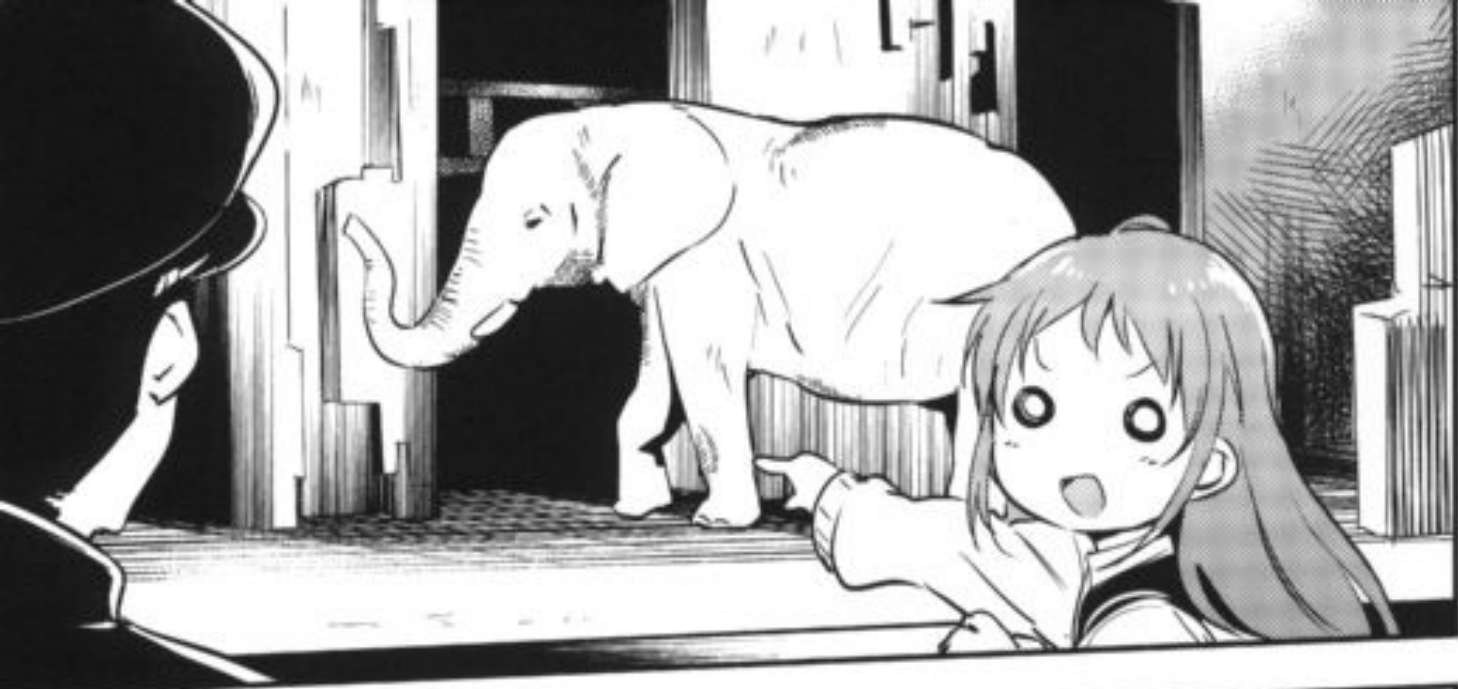
熱の後遺症だ













意外だったな

慌てモノだが  
控えめな性格だと  
思っていた五月雨  
だが

子供としてだと  
こんなに無邪気に  
振舞えるなんて



普段は  
上官と部下  
だからな

そこには  
どうしても  
距離がある

それを  
取り払えば  
本来の彼女は  
あんな感じ  
なのだろう



あっ



我が子ながら  
素直で  
いい娘だよ

ふっ

いや  
お前の子じゃ  
ないよ……？



提督！

お茶が  
入りましたよ

ひとときの  
夢は終わったが

彼女との  
日常は  
変わりなく  
続いている



E  
N  
D

おすめ  
のち  
あめ